おんぼろ宇宙船と きえた子どもたち

アーンショウ作　亀山龍樹訳

Earnshaw, Brian NDC 933
おんぼろ宇宙船ときえた子どもたち
アーンショウ著 亀山龍樹訳 186P 23cm
原題：DRAGONFALL 5
AND THE EMPTY PLANET

1980年2月10日 初版発行©

定価 830円
検印廃止

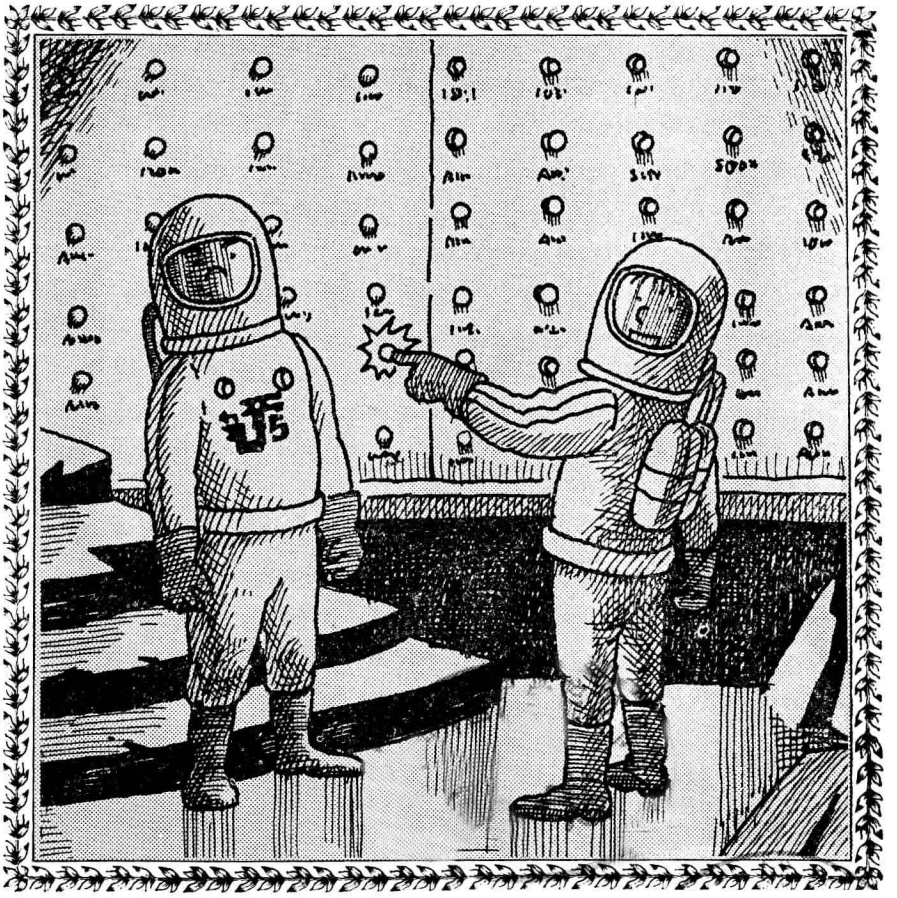
訳 者 亀山龍樹
発行人 黒川 巌
編集人 石井和夫
印刷所 壮光舎印刷株式会社
発行所 株式会社 学習研究社
東京都大田区上池台4-40-5 〒145
振替 東京8-142930

この本に関するお問合せ、製本上のミスなどがありましたら、下記あて文書または電話でお知らせください
東京都大田区上池台4－40－5 〒145
学研ユーザー・サービス部「児童図書係」
電話(03)720-1111（大代表）

無断複写複製(コピー)を禁ず

Printed in Japan

おんぼろ宇宙船と きえた子どもたち



ブライアン=アーンショウ／作

亀山　龍樹／訳

倉橋　達治／絵

おんぼろ宇宙船ときえた子どもたち

もくじ

ハーベイ＝アレン銀河学校……7
ディブというやつ……44
うたう石像……73
ゴソゴソアル木が、はなしたこと・99

《氷のどうくつ》……134
ジャークのおてがら……165

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

時は、何世紀も未来――。

『おんぼろ宇宙船』(ドラゴンフォール・5)には、イライアス船長、ドッシリーかあさん、むすこのティムとサンチェスの、一家四人がのっています。惑星から惑星へ、たのまれて荷物をはこぶのが、一家の仕事です。

ところがこの貨物宇宙船、車でいうとクラシックカーといった旧式船で、しょっちゅうこしょうをしては、いろいろな星へ不時着します。

ゆかいな愛犬ジャークと、テレパシーで通訳をするミニムをのせて、さて今回は、どんな星で、どんな冒険をくりひろげるでしょう……。

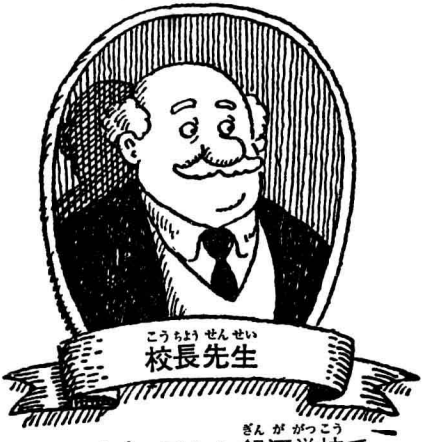
そのほかのおもな登場人物

タンヤ　マイク

ハーベイ＝アレン銀河学校にかよう，きょうだいの生徒。ティムとサンチェスの，小さいころからの，だいのなかよし。

ディブ

いつも，『おんぼろ宇宙船』をけなしたり，ティムとサンチェスにいじわるばかりしている，金ぱつの少年。



校長先生

ハーベイ＝アレン銀河学校で，《スヤスヤ勉》という最新式の機械をつかい，ねむっているあいだに学習をする教育をしている。

リース先生　ラドムンゼン先生

ハーベイ＝アレン銀河学校の先生。午後には，生徒たちと，ジェット・ポロゲームをしたり，ハイキングにもでかける。

DRAGONFALL 5

AND THE EMPTY PLANET

Brian Earnshaw

Original English edition published

by Methuen Children's Books Ltd, London.

Copyright © 1973 by Brian Earnshaw

Japanese translation right arranged

with Associated Book Publishers Limited

through Japan UNI Agency, Inc.

ハーベイ＝アレン銀河学校

ドッシリーかあさんは、いいました。

「どっちの学校をえらんでも、かまいませんよ。だけど、どっちにいくにしたって、四週間は、みっちり勉強することね。」

ドッシリーかあさんは、船室のおくのソファーに、どっしりとかまえています。いいだしたことは、ぜったいにひっこめませんよ、というようすです。

「四週間も？」

ティムとサンチェスは、ひめいのような声をあげました。それから、まずティムがいいました。

「だけど、かあさん。ぼくたちはこの四年のあいだ、四週間なんてそんなにながく、ドラゴンフォール・5からはなれたことはないんだよ。」

つづいて、サンチェスがいいました。

「ジャークは、どうするの？」

サンチェスは、『空とびいぬ』という、名誉あるあだ名をもっている愛犬ジャークの、ふさふさした毛をなでながら、ふへいをいいました。

「それに、ほら、ミニムたちもさびしがるだろうし……」

サンチェスは、船室の天じょうにつるしてあるとまり木で、たのしそうにあそんでいるすこしふとったリスのような、六ぴきの小さな動物のほうに、あごをしゃくりました。

ところが、ドッシリーかあさんのへんじの、そっけないこと……。

「ジャークにとっては、えさをくれる人ならだれだって、いいご主人ですよ。それから、ミニムはね、これからの四週間は、いそがしくて、さびしがるひまなんかありません。とうさんとかあさんは、それぞれことばのちがう三つの星へいくんだから、わたしたちの通訳の仕事で、きりきりまいの大いそがしになるはずです。」

ミニムが、とまり木の上で、ぺちゃくちゃしゃべりはじめました。ビーズのような黒い

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目をかがやかせ、気どったポーズをして、ちょいちょい下のようすをうかがっています。

ミニムは、ほめられたり、おせじをいわれるのが、大すきでした。でもまあ、たしかに、ほめられるねうちはじゅうぶんにある動物です。なにしろテレパシーで、あいてのかんがえが、パッパッと、つつぬけにわかるのです。しかも、さかなのことばをのぞけば、宇宙の生物たちのすべてのことばを、ききわけ、はなすことができるのでした。

機械いじりがお手のもののティムが、いいました。

「じゃあ、光速エンジンの調整はどうするの？　それに自動操じゅう装置だって、ここんとこ、ちょうしがわるくなってるよ。なにしろ十五億キロも、つづけざまにとんだんだもん……おや？」

ティムは、船室のまどをのぞいて、話をかえました。

「たいへんだ、カラッポ星に、もうこんなにちかづいちゃった。おかしいなあ、一時間まえに、スピードをおとしておいたはずだけど……」

「なあに、調整ができていようといまいと、気にすることはないて。スピードがはやすぎ

りゃ、ちょっと星を、一周すればすむことじゃ。」
と、子どもたちのおとうさんのイライアス船長が、操じゅう席からいいました。
船長は、がんこでへんくつで、それがじまんでもありましたが、いまのところは、いいきげんでした。着陸用のロケットエンジンが、とてもちょうしがよかったからです。
イライアス船長は、急降下のスリルと、この宇宙船の古めかしいロケットエンジンをバーバーふかすことが、大すきでした。スピードは、やっと時速十三万キロにおちました。『おんぼろ宇宙船』は、いよいよカラッポ星の大気圏に、とつにゅうしようとしていました。ひじょうにいいかんじの乗りごこちです。
「ほうら、あれをみなさい。」
イライアス船長は、まるい、みどりのカラッポ星をゆびさしました。カラッポ星の大気圏には、氷になった水素の白い雲が、いっぱいにういていました。
イライアス船長は、きげんよくはなしつづけました。
「宇宙のなかで、もっとも気候のおだやかな、けんこうにはもってこいの星じゃ。こうい

う星で学校生活がおくれるんだから、いうことなしじゃわい。空気は、しんせんできれいで、耳ざわりなそう音はないし、けっこうしごく。」

でも、サンチェスは、うかないかおです。

「おまけに、たいくつで、つまらない星だよ。もともとは、だれもすんでいなかった、からっぽのあきや星だもの。大すきな動物もほとんどいないし、かわりに、きけんなおばけ植物が、のそのそうごきまわっている、へんてこな星……」

「あの植物は、人間がきずつけようとしなければ、なにもせんよ。」と、船長は、頭ごなしにきめつけてから、しかつめらしいかおでいいました。「それにじゃ、おまえたちは、宇宙航行学をまなんで、その修了免状をもらわなければ、いつまでたっても、正式の操じゅう免許証がとれんぞ。おまえたちが、四週間がんばって、ぶじにパスした免状をみせてくれれば、それこそばんざいだ。なあ、かあさん。」

「そうですとも。」と、ドッシリーかあさんも、さとすようにいいました。「さあ、あんたたち、ハーベイ＝アレン銀河学校か、アルクキイ宇宙学院か、そのどっちかに、はやくき

めなさい。もうすぐ、着陸の軌道にはいりますよ。この宇宙船については、よくしっているでしょう。そりゃ、すばらしい宇宙船だけど、旧式で、一ぺんきめた軌道は、やりなおしがききませんからね。さあ、どっちの学校にするの？」

「どっちの学校にするかをいったら、ぼくらに、操じゅうをやらせてくれる？」

ティムは、このときとばかりに、いいました。いずれ学校には、いかなければならないのですし、それに、あたらしいことをまなぶのも、おもしろそうです。そして、船長はいままで、着陸のしせいにはいってからは、いちども子どもたちに、操じゅうをまかせたことがありませんでした。いまこそ、ねだるのに、いいチャンスです。

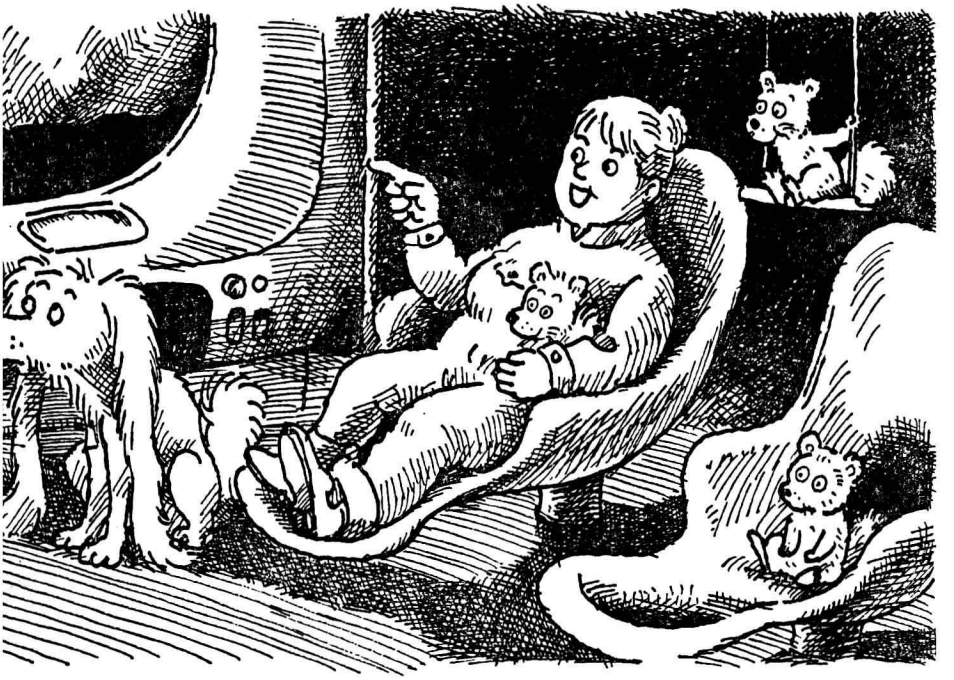
「操じゅうさせましょうか、船長。」

と、ドッシリーかあさんが、にこにこしながらいいました。

「どっちの学校にするんじゃ。」

船長は、いまいましげに、白いあごひげをしごきました。

「ハーベイ＝アレン銀河学校！」



と、サンチェスが、すかさずいいました。その学校では、友だちのタンヤとマイクのきょうだいが、植物の勉強をしているのです。

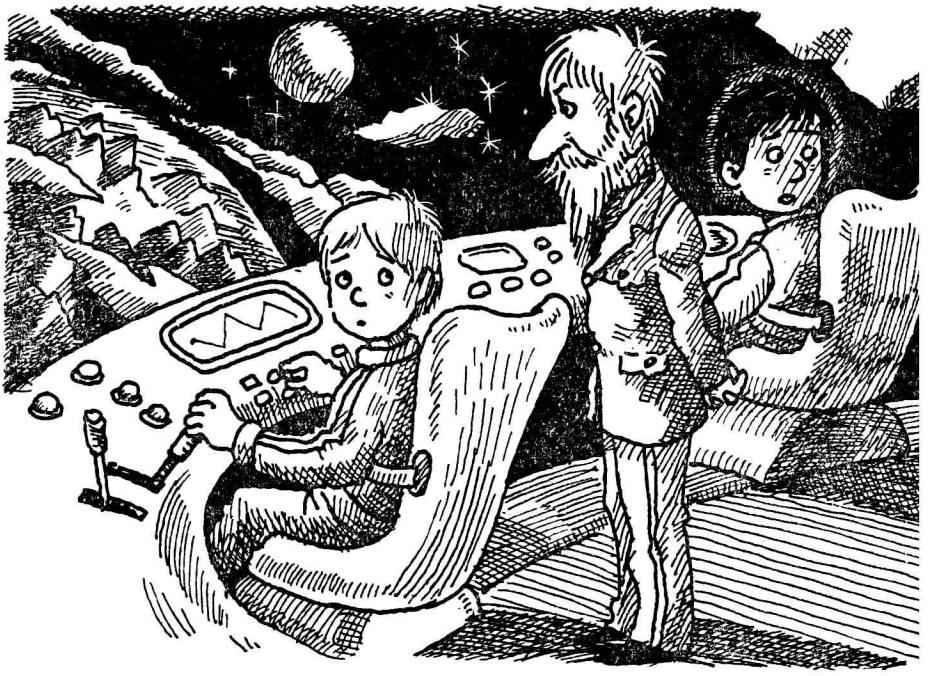
「やれやれ、ぬけめのないやつらだ。」

イライアス船長は、そういって操じゅう席のシートベルトをほどき、座席からもがくようにしてぬけだしました。

「さあ、やんなさい。」

いよいよ、思い出にのこる、着陸のはじまりです。

まず宇宙船は、カラッポ星の月の下を、かいくぐってとびました。この月は、ひじょうにきけんでした。というのは、比重が



大きく、そばによると、宇宙船をとてもつよい引力でひきつけるのです。そんなこまりものの月ですが、とおくからのながめはたいへんうつくしく、表面は水素の氷でおおわれて、ながれる水のように、きらきらきらめいていました。そこには、まだ、だれも、ぶじにおりたったものはいません。

『おんぼろ宇宙船』は、カラッポ星の北半球にむけて、弧をえがいておりていきました。前方に、みどり色にうねっている大陸が、まるくひろがってみえます。そのほんの一か所の、針でつついたていどの場所に、ハーベイ＝アレン銀河学校があるのです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com